

# 第16回

# らくぶん 楽文コンテスト

## 各賞受賞作品発表!!

君が大好きなこと

君の家族のことや友達のこと、

大好きなお祭や夢中になっている事。

いろんな君の「大好き」を教えてください。

詩・作文・歌、君にあった方法でかまわない。

一行でも、誤字・脱字、

ぜんぶひらがなでもOK。

じょうずじゃなくてもいい。

そう、「楽文」でいいんです。



## NPO 博多の風 第35回 博多の風フォーラム

- ◎主催 ..... **博多の風**
- ◎特別協賛 ..... **docomo**
- ◎協力 ..... 博多祇園山笠振興会、(株)毎日新聞社、RKB毎日放送(株)、日本電気(株)
- ◎選考委員 ..... 豊田 侃也氏(博多祇園山笠振興会 会長)  
永守 良孝氏(RKB毎日放送 代表取締役 会長)  
沢田 幸二氏(KBC九州朝日放送 パーソナリティ)  
大庭 宗一 (NPO博多の風 理事長)

- ◎協賛 .... 西部ガス(株)、西日本鉄道(株)
- ◎後援 .... 福岡市、福岡市教育委員会、福岡商工会議所  
(一社)九州経済連合会、(株)岩田屋三越、九州電力(株)  
九州旅客鉄道(株)、(株)九電工、コカ・コーラウエスト(株)  
(株)西日本シティ銀行、NTT西日本福岡支店、(株)福岡銀行  
[順不同]

# 第44号

平成28年11月発行

## 近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください  
<http://hakanokaze.jp>

### 平成27年

- 4月 第34回 NPO博多の風フォーラム 開催  
講師: 因幡 敏幸氏(春日大野城那珂川消防本部)
- 6月 第14回 追山コース探訪 開催
- 7月 第15回 楽文コンテスト 開催
- 11月 第35回 NPO博多の風フォーラム 開催  
講師: 戸谷 弘一氏  
(福岡県警察生活安全部 参事官兼  
生活安全総務課長 警視)

### 平成28年

- 4月 第36回 NPO博多の風フォーラム 開催  
講師: 沢田 幸二氏(KBC九州朝日放送アナウンサー)
- 6月 第15回 追山コース探訪 開催
- 7月 第16回 楽文コンテスト 開催

## NPO博多の風の歩み

- 設立  
平成10年 9月  
任意団体『博多の風』設立 代表: 大庭宗一
- NPO登記  
平成12年 6月  
『NPO博多の風』として登記 理事長: 大庭宗一

## NPO博多の風事業概要

- 啓発事業
  - ・博多の風フォーラム開催
  - ・広報誌・HP発行
  - ・毎日新聞世論フォーラム公聴
  - ・作文コンクール(楽文コンテスト)開催
- 地域環境向上事業
  - ・博多の町親交  
(清掃活動クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)
- 活性化事業
  - ・書籍出版
  - ・博多祇園山笠の振興
  - ・追山コース探訪開催
- 協力事業
  - ・各市民団体との情報交換及び支援



NPO特定非営利活動法人  
〒812-0027  
福岡市博多区下川端町8-16 -302  
FAX 092-263-7188

E-Mail [info@hakanokaze.jp](mailto:info@hakanokaze.jp)  
URL <http://hakanokaze.jp>













一つの試練

●野間中学校1年

カ イ シ ョウマ  
甲斐 匠馬

僕は、今、とても強いラグビーチームに所属している。三年生の先輩が九州大会に優勝し、全国への出場を決定した。去年も全国へ出場し、惜しくも準優勝に終わってしまった。

「今年こそ。」  
と先輩も気合いが入っている。そんな先輩は僕の憧れだ。

僕は、今一年生で、来年は、二年生だ。来年には、レギュラー（試合にいつも出る人）になりたい。レギュラーになって全国大会を優勝して、その次の年も優勝して三連覇するのが今の僕の夢だ。

しかし、僕は今、人生の分かれ道に立っている。それが、ラグビーを辞めるか、辞めないか。ラグビーも好きで、ラグビー仲間も大好きなのが、僕には一年のコーチである父親がいる。父親は大学で（ラグビーの）全国大会で優勝している。とても強くて尊敬している。

しかしラグビーに関して、かなり厳しい。父親がコーチになって気付いたのだが、コーチの息子というのは、と

私が大好きなこと

●照葉中学校2年

ムラタ ヒナ  
村田 日菜

でもプレッシャーがあつてきつい。みんなが思っているより何倍もつらい。ついにそれも我慢できなかつた。そして、今辞めようかと思っていたのだ。

父親が僕を強くしてくれようとしていて、よくつたわつてくるのだが、つらくてきつい方が上回っている。それと、一番僕がつかうのは家に帰っても、しかられる、ということだ。

ある日の事、ラグビーから帰ってきて、  
「また、なんか言われるんだろうな。」  
と思っていたら父親からこんな事を言われた。

「コーチの息子つて大変だよな。コーチの息子だからレギュラーになって試合に出れる訳でもないし、家に帰ってもガツガツ言われるし、なんか申し訳ないな。」  
その時、自分が情けなくなつた。

今でも、父親からは言われるが、それも試練だと思つている。  
これが僕の大好きなラグビーだ。

NPO博多の風賞

本と「旅」

●香椎第三中学校2年

タテシ モエ  
立石 望笑

私は本を読むことが好きだ。本のひとつひとつの中にこの世界とは違う、別の世界が詰まっている。そして、本を読んでいるときだけは、その別の世界を見ることができるとをちよつとした「旅」だと思ふ。

本屋、書店や図書館などで本を選んでいるときは、私にとつてすごく幸せだ。たくさん楽しそうな世界がひろがっていて、その中のどれかを「旅」することができると思ふと、踊つてしまうくらい、うきうきしてしまう。

そして、それは皆の思う本イコール小説に限つたことではないと思ふ。漫画や図鑑、絵本、辞書だつて本だ。漫画や絵本にも楽しそうな世界は詰まっているし、図鑑はその動物や植物がたくさんある面白い世界が詰まっているし、辞書にはたくさんの言葉があふれる知識の世界が詰ま

君が大好きなこと

●田隈中学校3年

ケンカウ テラキ  
岸川 千明

胸の奥でドキドキと高鳴るあの緊張感。これからも忘れることはない達成感。怒られて泣きながら帰つたあの日も、毎日詰め込んでいた練習も今ではいい思い出になつた。終わつてから気づいたけれど、私は部活が好きだ。

最初は、何も分らないまま吹奏楽に入った。ただ、先輩が楽器を吹いているのがかっこよくて自分もああなりたいと思つた。けれど、初心者急が上手になるわけもなく憧れだつた先輩は卒部してしまつた。一、二年だけ残された部活は、私にとって「地獄」となつた。  
「先輩よりも早く行動して。」  
先輩になるとよく分かる言葉も、まだ一年生の私には負担でしかなかつた。

二年生になると、先輩ができ、新しい顧問の先生がきた。部活の方針が変わり、「県大会金賞」を目指すようになった。三年になって、副部長をすることに、責任や先輩に頼られることも多くなつた。部活を辞めようと思つた

君が大好きなこと

●香椎第三中学校3年

イワナガ コウタ  
岩永 孝太

レフリーがホイッスルを吹き、チームメイトが笑いながらやつて来る。周囲は大歓声。まさか最後の県大会の場でトライを決められるなんて。胸からこみ上げる感情がおさえられず、思わずガッツポーズをする。今の自分なら何でもできそうな気がして来る。そうだ。何でもできる。よし。このままもう一本。もう一本トライを――。

ズリリッ。目覚まし時計の音――。ああ、夢か。がっかりしたと同時に少し得をしたように思える。荒々しく目覚まし時計をたたき音を止めると、叫びながら体を起こす。早起きは苦手だ。でも今日は、今日だけは、寝坊するわけにはいかない。この日を僕は待っていた。今日はラグビーの最終試合。それを二度も体験できるなんて、こんな得はないと僕は思ふ。

僕がラグビーと出会つたのは小学校四年生の時だつた。はじめは、泣いて家に帰つて来るほどで、ラグビーは僕にとって恐怖そのものだつた。しかし、だんだんと体が強く

## わたしのかけがえのない 大好きなもの

●野間中学校3年

田淵 梨瑚  
タラチ リコ

私には、たくさんのお好きなものがあります。その中でも特に私が生きていく中で必要なものと考えられるものを紹介します。

それは、「友だち」です。私は鹿児島・宮崎に住んだことがあるので、そこにも友だちがいます。もちろん福岡にもたくさんいます。その中の一人の女の子は、家も近所で部活も一緒にパートも一緒にした。彼女はとてもトランプペットが上手くて、入部したの頃は正直遠い存在の人でした。しかし、ほとんど一日中一緒にいるのでだんだんと打ち解け合っていききました。彼女のいいところはたくさんあります。到底私には敵わないくらい素晴らしい人です。そんな彼女に、嫉妬することも少なくありません。私がきつく当たったら、正々堂々と彼女も私に向かって言いたいことをぶつけてきます。彼女からきつく当てられたら私もぶつけていきます。でも、それが原因で私たちの仲が裂かれたことは一度もありません。

で父が私たちのバスケの試合の写真撮ってくれました。速く動くし、常に動いているスポーツなのにしっかりと撮れていてもちろんカメラを見ていないみんなの一生懸命な姿が写っている私の大好きな写真でした。その写真を部員が見るとみんなが「凄いい」「この写真ほしい」などと言っていて、もしこれが自分の撮った写真だったら凄く嬉しいだろうなと思いい、誰かが頑張っている姿を撮ってみたいと思いました。

自分の部活の写真を撮ることとはできなかったけど、他の部活の人が頑張っている姿は最後に撮ることができました。その写真を見せるとみんなとても喜んでくれました。自分が撮りたくて撮った写真をそんな風に喜んでくれて、本当に嬉しかったです。今までも誰にも見せたことがなかったのですが、こんな相手が喜んでくれるとは思っていませんでした。この時は本気で写真家になりたいと思いました。これからもたくさんのお写真を撮って自分の大好きなことをもっと大きくしていきたいです。

飯を毎日作るのはきついと思う。そういうときに、私が作ってあげるとお母さんは嬉しそうだ。美味しいと言って何で味付けしたかなど、レシピをきいてくるが私は教えない。自分だけのものにした方がいい。味が薄いとかわいらしいアトバイスはくれるので、そこは参考にして次に活かしていく。それが自分のやり方だ。自分にとって料理人やパティシエになることは難しい。だけど誰かを笑顔にすることはできる。それはとても素敵なことではないか。好きなことに夢中になれることは素晴らしいことだと私は思う。そして今日もまた、エプロンを着て台所にいる。

くて、黒くて大きなカメラにずっと憧れていたのももらった時は嬉しくて何の目的もない写真をたくさん撮っていました。

私が写真を撮ることに憧れた理由は、行事の時にカメラマンさんが撮って下さる写真を見て、カメラ目線ではなく、みんなが楽しんでいる時や真剣な時などの素顔の瞬間を写真に収めていることがとても凄いいと思っただけです。普通カメラを見て撮るのも良いけれど、みんなで笑い合っている写真や同じ方向を向いている何かを見ている写真の方が私は心に残る瞬間な気がして好きだったの、自分もそんな写真が撮れるようになりたいと思っただけの時でした。

カメラをもらってからは外出する時はほとんど持ち歩いていました。人だけではなく空や鳥など残したい、誰かに見せたいと思っただけです。誰かに見せたいと思っただけでも人に見せることはありませんでした。何が撮りました。誰かに見せたいと思っただけでも人に見せることはありませんでした。何が撮りました。誰かに見せたいと思っただけでも人に見せることはありませんでした。何が撮りました。

笑うお母さん。私はこのとき、料理は魔法だと思った。そして、私は小学二年生の八歳から包丁をもつ。最初は何もできなかったけど、料理の楽しさに、気づいた。小学六年生になったときには毎日のように夜ご飯を作っていた。部活から帰ってきたお兄ちゃん、仕事から帰ってきた親がたくさん食べてくれるのが嬉しかったから。レシピ本を見たり、料理番組を見たり、自分で研究したりして今ではレパートリーが増えた。もちろん、お菓子作りもできる。毎年バレンタインにはケーキを焼いて、友達と交換している。

でも、私は料理人やパティシエになるとは思わない。理由は大変そうだから。仕込みや片付け、掃除や買い出し。正直面倒くさがり屋の自分には向いていないと思う。だけど、友達と夢を語り合ったとき、一緒にレストランや喫茶店を開いてみたいと思ったときがあった。何かやる時に一人でやるのではなく、誰かとすれば楽しいし、続けられそうだから。しかし、これはあくまでただの妄想であり、実現するにはとても難しいであろう。専門学校や修行：やっぱ大変そうだ。

帰りの遅いお母さんは、

でもとっさに体が動き出す。ボールを持って走り出す。風が僕の背中をおし、そして追いこした。

「トライ」  
チームメイトが笑ってこっちは来る。周囲は大歓声。今ははつきりと分かった。僕はラグビーが大好きだ。

今朝の夢。鮮明な夢。それは今、現実となり、ラグビー漬けの日常は非日常となる。いや、まだなっていない。試合は終わっていない。最後の何か。僕は現実を「夢」にすべく立ち上がり、また走り出す――。

## 私が大好きなこと

●和臼中学校3年

夷 日向  
ヒビス ヒナタ

私が好きなことは、父からもらったカメラで写真を撮ることです。

父からカメラをもらったのは中学一年生のときです。父が新しいカメラを買い、使わなくなったものをもらいました。私は携帯のカメラ機能や小さなデジタルカメラではな

は生きていく中で大切にしていけるものだと私は思うからです。

## 私の好きなこと

●和臼中学校3年

安田 亜実佳  
ヤスタ アミカ

「トントントン」。「ジュー。」今日もこの音が部屋中に響きわたった。私は今、エプロンを着て台所にいる。家族にご飯を作るために。

私の好きなことは、誰かの為に料理をすることだ。相手の喜んでくれる顔が見たいから。料理に興味をもったのは小学校に入学した頃で、お母さんが料理している姿をずっと眺めていた。玉ねぎが包丁一本で細かくなり、真っ白のご飯が赤色に染まり、とろとろの卵がのって、あつという間にオムライスが出来上がる。卵、玉ねぎ、ご飯、ケチャップなどいろいろな食材からオムライスが完成する。一つ一つの作業に驚く私、私を見て

なって上手くなっていくうちに、野球やサッカーとは全く違う緊張感やいっけがをしてもおかしくないスリル感、やればやるほど高まる熱、その全てにひかれていった。「楽しい時間ほどすぐに過ぎる。」その言葉通り、仲間との楽しい時間はすぐに過ぎ去り、そして今日を迎えた。気づけば試合会場についていて、アップを始めていた。この先に待ちかまえる試合もそうやって過ぎていく。そう思うとこのアップで走る一歩一歩に力がこもる。アップが終わり、パスの練習をし、タックルの練習に入り、また試合へ一歩近づく。するとコートから、試合終了のホイッスルが聞こえた。いよいよだ。次は僕達の番。円陣を組み気合を入れる。今朝のあの夢を正夢に。夢を現実にする。

ピ―。試合開始。それと同時に僕達は飛び出した。次々と攻め寄る敵をタックルで迎え、一人一人確実に倒していった。絶対に後悔しない。その思いを胸に一歩ずつ着実に敵をおしていく。ここがふんばりどころだ。と、さっきまで敵が持っていたボールが自陣に転がっている。言葉はなかった。声すらなかった。指示なんて出ていなかった。

ん。むしろ、隠し事がなくなっ

てより一層深まりました。私は、こんな友だちは初めてでした。ケンカしたらそこでもう関係は終わりだと思っていたけど、彼女はそんな私の考えを覆しました。初めは少し抵抗もあったけれど、彼女は私を信用してくれているんだなと実感しました。その瞬間、私はもつと彼女のこと

が大好きになりました。「『深友』と書いて『しんゆう』って読むんだよ。親友とか心友とか神友とか、たくさんあるけど私は『深友』が一番大切な人って感じがする。私とたぶこは『深友』だね。」

たぶこことは、私のニックネームです。これは、彼女が言ってくれた言葉です。聞いた瞬間私は泣きそうになりました。「一番大切な人」と言ってくれて嬉しかったからです。そして、私は彼女を『深友』として大事にしようと思えました。高校は離れても一生『深友』です。

まだたくさん友だちはいます。きつとこれからもたくさん友だちができると思います。そこで私は、彼女のように常に正々堂々と言い合える友だちをもっともっとつくって